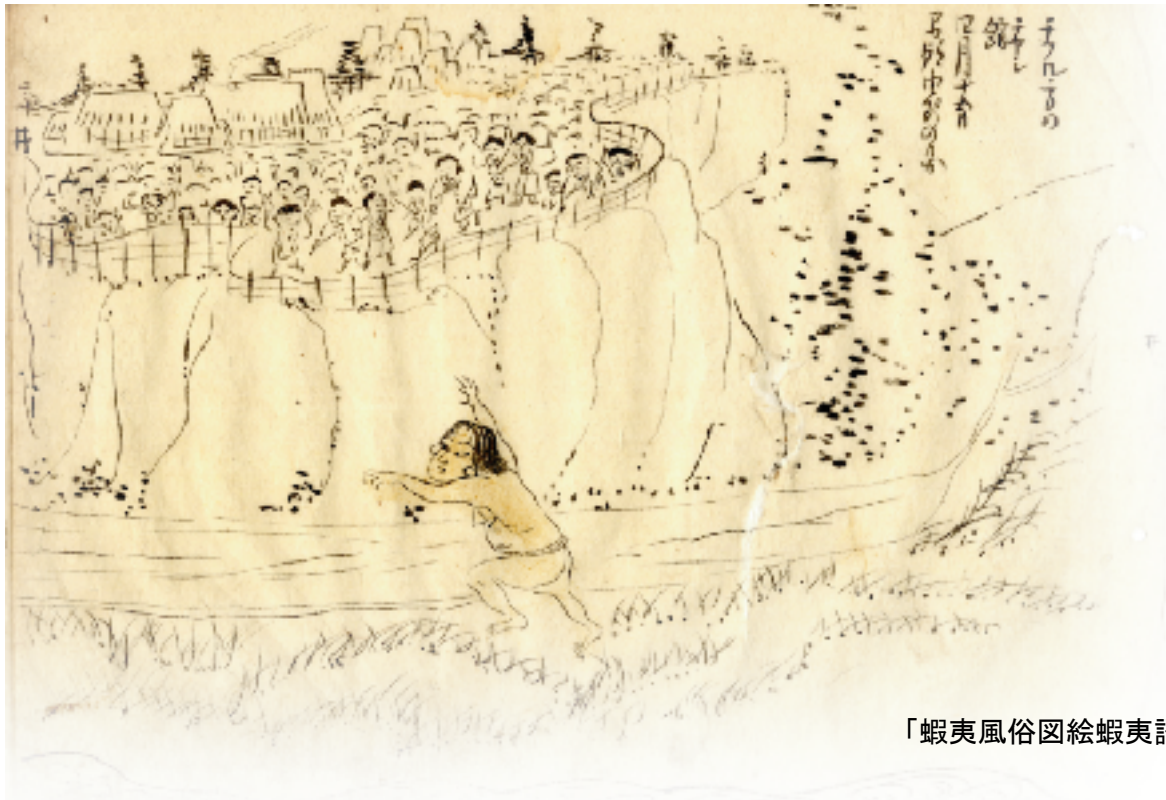


ヲ子コイチャシとチフルチャシの物語



「蝦夷風俗図絵蝦夷語解説②」

「加賀家文書」には、場所請負人の場所支配に関する継立御用文書、申渡書、アイヌ語和訳、和文夷文、写本版本、書簡など多様な文書資料がある。その中には、根室地方を描いた地図や絵図なども含まれ、当時の様子を知らせてくれる。

その中でアイヌ民族とチャシ跡を描いた「ヲ子コイチャシとチフルチャシの物語」は、当時の伝説や物語として大変貴重なものである。

物語の内容は、ヲ子コイチャシの首長エリモンクルが、計略で愛するコイカエマツを裸にして、敵のチフルチャシの近くを走らせた。自分のチャシでも内乱があったように見せかけて、家に火を放ち、味方同士が争いを装った。チフルチャシのアイヌは、ヲ子コイチャシのアイヌを弱いとあなどっていたので、コイカエマツの裸に見とれて後から不意をつかれ負ける。

この物語に出てくる地名は別海町春別川から標津町の地域にかけてのもので、さらに現実的な描写が多く見られる。チャシのまわりにめぐらされた柵、壕、または橋、戦いに裸の女を利用したり、弓矢、棒、石を使用するなど古記録に残されたものと似ており、物語ということではなく伝承的なものも入っていると考えられる。

この二つのチャシのモデルとなっているチャシは、ヲ子コイチャシが望ヶ丘チャシ(標津町)、チフルチャシがタブ山チャシかオンネチャシ(標津町)と考えられる。

引用文献『北海道東部のヲ子コイチャシ、チフルチャシの一物語』本田克代 北海道チャシ学会研究報告1 1981



「タブ山チャシ跡」